

平成27年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年6月12日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東
 コード番号 2929 URL http://www.pharmafoods.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祐
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部部长兼 総務部部长 (氏名) 益田 和二郎 TEL 075-394-8600
 四半期報告書提出予定日 平成27年6月12日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年7月期第3四半期の業績（平成26年8月1日～平成27年4月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年7月期第3四半期	1,348	38.6	△367	-	△307	-	△236	-
26年7月期第3四半期	972	7.3	△142	-	△113	-	△115	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年7月期第3四半期	△8.16	-
26年7月期第3四半期	△4.65	-

(注1) 平成26年7月期第3四半期及び平成27年7月期第3四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」につきましては、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(注2) 当社は、平成27年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年7月期第3四半期	3,748	3,428	91.2	118.02
26年7月期	3,934	3,691	93.8	127.54

(参考) 自己資本 27年7月期第3四半期 3,419百万円 26年7月期 3,691百万円

(注) 当社は、平成27年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり純資産」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年7月期	-	0.00	-	0.00	0.00
27年7月期	-	0.00	-		
27年7月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成27年7月期の業績予想（平成26年8月1日～平成27年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,150	33.2	△380	-	△320	-	△250	-	△8.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年7月期3Q	28,975,800株	26年7月期	28,941,000株
② 期末自己株式数	27年7月期3Q	-株	26年7月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年7月期3Q	28,954,213株	26年7月期3Q	24,898,370株

（注）当社は、平成27年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社は平成26年12月12日開催の取締役会において株式の分割について決議し、平成27年2月1日の効力発生日をもって、当社株式を1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「3. 平成27年7月期の業績予想」の1株当たり当期純利益は当該株式分割の影響を考慮しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第3四半期累計期間	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、消費税増税による消費の落ち込みがみられたものの、政府による経済政策や日銀の金融緩和政策の継続を背景に輸出企業の業績や雇用情勢が改善し、景気は緩やかな回復を続けております。

このような環境下において、当社は「医薬と食の融合」というコンセプトに基づき、事業部門を機能性素材部門、機能性製品部門(通販事業)、機能性製品部門(OEM等)、バイオメディカル部門、L S I (Life Science Information) 部門と定めて事業活動に取り組んでまいりました。

開発面では、創薬事業に注力してきた結果、ニワトリ抗体医薬事業において「関節リウマチプロジェクト」が経済産業省所管の大学発の技術シーズ活用プロジェクト「橋渡し研究事業」に、「悪性腫瘍プロジェクト」が独立行政法人科学技術振興機構(JST)の「研究成果最適支援プログラム」に選定されるなど、事業化へ向けて進捗いたしました。

両プロジェクトとも各大学医学部との共同研究を行っており、独自の開発技術の特許を製薬企業へライセンスアウトするビジネスを目指しております。

またニワトリ抗体作製技術による「高病原性鳥インフルエンザの診断・防除法の開発」が、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構の大型プロジェクトに採択されております。

この他、新規機能性素材の開発を進めており、新規育毛活性ペプチド「HGP (Hair Growth Peptide)」、鶏軟骨由来のヒアルロン酸産生促進素材「HAS-II (ハス・ツー)」を開発いたしました。各素材とも注目を集めており、今後の主力素材へと育成を進めてまいります。

通販事業では、3期目となる今期、将来を見据え積極的な展開を行ってまいりました。ラジオCMを中心とした広告展開に加え、今春からテレビCMのリニューアル放送を開始しております。その結果、顧客獲得が当初の想定以上に効率良く進んでおり、年間を通じて継続的にご利用頂く定期顧客数は、前期末(平成26年7月末)の7,000件から平成27年2月2日時点で15,000件と半年間で倍増し、5月末時点では20,000件を突破しております。

効率良く広告展開を行っていることに加えて、昨年9月に新設した自社のコールセンターが顧客獲得に大きく貢献しています。今後も更なる事業の拡大を見据え、積極的な展開を進めてまいります。

これらの結果、売上高は1,348百万円(前年同四半期972百万円、前年同四半期比38.6%増)となり、売上総利益については、841百万円(前年同四半期549百万円、前年同四半期比53.2%増)となりました。販売費及び一般管理費については、通販事業での将来を見据えた先行投資を行った結果、1,209百万円(前年同四半期691百万円、前年同四半期比74.9%増)となり、営業損失は367百万円(前年同四半期は営業損失142百万円)となりました。

通販事業では、積極的な展開を目指した結果、費用は先行発生しておりますが、事業は順調に拡大しており、将来の収益源となる事業基盤の構築が進んでおります。

経常利益では、営業外収益に創薬事業等による補助金収入44百万円、為替差益28百万円、営業外費用に雑損失27百万円等を計上した結果、経常損失は307百万円(前年同四半期は経常損失113百万円)となりました。

純利益では、投資有価証券売却益134百万円、訴訟損失引当金繰入額56百万円等を計上した結果、四半期純損失236百万円(前年同四半期は四半期純損失115百万円)となりました。

各セグメント別の業績は、次のとおりです。

<機能性素材部門>

当社の基幹技術である「鶏卵抗体(オボプロン)」では、ピロリ菌抗体「オボプロン」が配合されているグリコ乳業株式会社の「ドクターPiroヨーグルト」が、高級スーパー、ドラッグストア、宅配ルート等で引き続き販売されております。また通信販売事業において、インフルエンザ抗体「オボプロン」を配合したサプリメント「マケンザX」、マスク用の「マケンザスプレー」を販売しております。

「ギャバ」につきましては、同製品が採用されております江崎グリコ株式会社の「メンタルバランスチョコレートGABA」が引き続き販売されております。「メンタルバランスチョコレートGABA」は今期リニューアル商品が複数販売されており、これに伴い「ギャバ」の売上も好調に推移しました。

この他、国内の営業展開では、本年4月から開始された「機能性表示食品制度」に対応し、「機能性表示推進室」を設け、「ギャバ」の機能性表示に向けた取り組みを進めてまいりました。

海外展開では、中国、北米市場において「ギャバ」の売上が大きく伸長しております。中国市場では複数の大手メーカーとの取引が開始されており、今後も更なる拡大を見込んでおります。

「ボーンペップ」につきましては、ロート製薬株式会社の「セノビック」に同製品が引き続き採用されております。海外では、韓国最大の乳飲料メーカーであります韓国ヤクルト社から、同製品が配合されました「新鮮な一日の牛乳」が引き続き販売されております。

「ランペップ」につきましては、運動疲労軽減用のサプリメント、活力向上用のサプリメントの他、毛髪修復効果を活かして、トリートメント素材で使用されるなど用途を拡大しております。

「iHA(アイハ)」につきましては、ヒアルロン酸配合サプリメント「皇潤プレミアム」に引続き採用されております。また同素材を配合した製品「タマゴサミン」を自社通信販売事業「タマゴ基地」で発売しております。

これらの結果、機能性素材部門の売上高は694百万円(前年同四半期655百万円、前年同四半期比6.0%増)、セグメント損失18百万円(前年同四半期はセグメント利益16百万円)となりました。

<機能性製品部門(通販事業)>

機能性製品部門(通販事業)は、3期目となる今期、将来を見据え積極的な展開を行ってまいりました。主力製品である膝関節用サプリメント「タマゴサミン」が好調に売上を伸ばしている事に加え、「sognando(ソニヤンド)」ブランドとして活性卵殻膜配合の「珠肌石鹸(たまはだせっけん)」、新製品の活性卵殻膜配合の美肌クリーム「珠肌のうみつ」も売上拡大に寄与しており、通販事業全体の売上は大きく伸長しております。

広告展開では「タマゴサミン」のテレビCMを今春よりリニューアルしており、好調な成績を残しております。順次放送エリアを拡大していき、更なる売上拡大を目指してまいります。

これらの結果、機能性製品部門(通販事業)の売上高は494百万円(前年同四半期112百万円、前年同四半期比339.9%増)となりました。利益面では将来を見据え広告宣伝費を積極的に投下してきた結果、セグメント損失308百万円(前年同四半期はセグメント損失164百万円)となりました。

<機能性製品部門(OEM等)>

OEM事業等では、健康食品会社、通販会社へサプリメントなどの企画・販売を行ってまいりました。

当期の売上高は116百万円(前年同四半期76百万円、前年同四半期比53.1%増)、セグメント損失22百万円(前年同四半期はセグメント損失29百万円)となりました。

<バイオメディカル部門>

バイオメディカル部門では当社の基幹技術である鶏卵抗体の高度展開を目指し、新たな創薬品の開発を進めております。当期においては「関節リウマチプロジェクト」が経済産業省の支援事業に、「悪性腫瘍プロジェクト」が独立行政法人科学技術振興機構(JST)の支援事業に採択されております。

今期は製薬企業とMTA契約の締結を実施する等、事業は進展しておりますが、今期中に見込んでいた製薬企業との共同開発契約の締結は次期の見通しとなっております。

この他、「高病原性鳥インフルエンザの診断・防除法の開発プロジェクト」が農業・食品産業技術総合研究機構の支援事業に採択されるなど、各事業が進展しております。また、大手製薬メーカーから医薬品・診断薬開発目的のための各種抗体受託作製を行ってまいりました。

以上により、売上高は20百万円(前年同四半期22百万円、前年同四半期比10.0%減)、セグメント損失34百万円(前年同四半期はセグメント損失7百万円)となりました。

<LSI(Life Science Information)部門>

LSI事業におきましては、医薬品メーカー・食品メーカー等から各種素材・製品等に関して分析・効能評価試験等を行っております。当期においては受託研究や成分分析等の受託業務を行い、売上高22百万円(前年同四半期105百万円、前年同四半期比78.4%減)、セグメント利益15百万円(前年同四半期はセグメント利益42百万円、前年同四半期比64.9%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産につきましては、受取手形及び売掛金の減少及び投資有価証券の減少等により、当第3四半期会計期間末は前事業年度末に比べ185百万円減少し、3,748百万円となりました。

負債につきましては、訴訟損失引当金の計上及びその他流動負債の増加等により、当第3四半期会計期間末は前事業年度末に比べ77百万円増加し、320百万円となりました。

純資産につきましては、四半期純損失の計上による利益剰余金の減少等から、当第3四半期会計期間末は前事業年度末に比べ262百万円減少し、3,428百万円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は平成27年5月16日付の「業績予想の修正に関するお知らせ及び次期(平成28年7月期)の業績予想について」で公表の通り、今期の業績は期初の予想を修正しております。

これは当社が重点事業としている「機能性素材事業」「通信販売事業」「創薬事業」の各事業において、当初の計画通りに進展しなかったものであります。しかし各事業とも事業は着実に進展しており、今後も「機能性素材事業」「通信販売事業」「創薬事業」の3事業を重点にする基本方針に変更はなく、更なる企業価値の増大を目指してまいります。

今後、取り組む主要な事項は以下の通りです。

① 機能性素材事業では、国内外の大手メーカーとの取引開拓を目指し、積極的に取り組んでまいります。開発面では、発酵青バナナ末「バナファイン」、鶏軟骨由来のヒアルロン酸産生促進素材「HAS-II」、サルコペニア(筋肉減弱症)対策素材「サルコペップ」等の新素材の事業化を進め、新規素材の売上拡大を目指します。

海外では、北米や中国、韓国、東南アジア等で大手メーカーとの共同開発や販路拡大など、新しい取引の開拓を行ってまいります。

② 通信販売事業では、一層の事業の拡大を目指し積極的に展開してまいります。今春より「タマゴサミン」のテレビCMをリニューアルして放送を開始しておりますが、効率の良い実績を残しております。これまでの実績をもとに手応えは掴めており、更なる積極投資を行うことで、次期以降へ向けた事業基盤の構築を進めてまいります。

また昨年9月からは自社コールセンターを新設し、新規顧客獲得へ大きく寄与しておりますが、コールセンター一部門を拡充し、一層の顧客開拓へ繋げてまいります。

この他「sognando(ソニヤンド)」ブランドで発売している「珠肌石鹸」「珠肌のうみつ」等の各製品の売上拡大を目指してまいります。

③ 創薬事業では、ニワトリ抗体医薬事業により、難治性の疾患に対する医薬品の開発を進めてまいります。

現在の主要プロジェクトとして「関節リウマチプロジェクト」「悪性腫瘍プロジェクト」の開発を進めており、今期は製薬企業とCDA(秘密保持契約)締結、MTA(サンプル提供契約)締結、一部の契約収入等の計上を行い、各プロジェクトとも進展しております。

この他、天然物由来の骨形成を促進する新規ペプチド創薬「リプロタイト」の開発も進めており、ニワトリ抗体医薬事業に続く、創薬事業の柱として注力してまいります。

尚、通期の業績予想につきましては、平成27年5月16日に発表しました業績予想数値から、変更はありません。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年7月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,513,820	1,513,650
受取手形及び売掛金	672,271	500,052
商品及び製品	193,779	244,675
仕掛品	927	772
原材料及び貯蔵品	9,261	22,160
その他	153,423	180,697
貸倒引当金	△7,117	△34,133
流動資産合計	2,536,365	2,427,874
固定資産		
有形固定資産		
建物	420,870	423,500
構築物	26,471	26,471
車両運搬具	15,180	17,173
工具、器具及び備品	183,260	211,404
土地	387,863	387,863
リース資産	16,703	16,703
その他	-	2,160
減価償却累計額	△345,176	△360,479
有形固定資産合計	705,172	724,797
無形固定資産		
のれん	2,682	2,179
特許権	863	1,696
商標権	541	464
ソフトウェア	534	348
その他	250	224
無形固定資産合計	4,873	4,914
投資その他の資産		
投資有価証券	346,907	232,086
関係会社株式	78,245	73,110
関係会社長期貸付金	178,598	202,367
長期前払費用	11,870	6,941
保険積立金	69,917	72,009
その他	4,331	6,689
貸倒引当金	△1,985	△2,223
投資その他の資産合計	687,884	590,981
固定資産合計	1,397,930	1,320,692
資産合計	3,934,295	3,748,567

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年7月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	135,859	91,540
リース債務	797	797
訴訟損失引当金	-	56,372
その他	72,316	140,704
流動負債合計	208,974	289,414
固定負債		
リース債務	731	132
退職給付引当金	6,657	4,528
繰延税金負債	26,868	26,237
固定負債合計	34,256	30,898
負債合計	243,230	320,313
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,020,327	2,024,416
資本剰余金	1,871,031	1,875,120
利益剰余金	△323,223	△559,442
株主資本合計	3,568,135	3,340,094
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	122,929	79,619
評価・換算差額等合計	122,929	79,619
新株予約権	-	8,540
純資産合計	3,691,064	3,428,253
負債純資産合計	3,934,295	3,748,567

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年8月1日 至平成26年4月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年8月1日 至平成27年4月30日)
売上高	972,984	1,348,929
売上原価	423,558	506,954
売上総利益	549,426	841,974
販売費及び一般管理費		
役員報酬	55,960	64,102
給料手当及び賞与	62,570	78,559
法定福利費	14,311	18,592
旅費及び交通費	25,497	22,526
支払手数料	106,402	205,324
広告宣伝費	148,374	419,217
販売促進費	27,156	65,948
減価償却費	8,023	8,398
のれん償却額	487	502
研究開発費	144,296	166,511
貸倒引当金繰入額	666	26,945
その他	97,961	132,998
販売費及び一般管理費合計	691,707	1,209,628
営業損失(△)	△142,280	△367,653
営業外収益		
受取利息	7,781	7,464
為替差益	19,839	28,405
補助金収入	5,859	44,198
その他	8,215	8,667
営業外収益合計	41,695	88,735
営業外費用		
支払利息	802	79
新株発行費	11,926	-
貸倒引当金繰入額	435	308
その他	9	27,774
営業外費用合計	13,173	28,162
経常損失(△)	△113,759	△307,080
特別利益		
固定資産売却益	-	134
投資有価証券売却益	-	134,272
特別利益合計	-	134,406
特別損失		
関係会社株式評価損	-	5,135
訴訟損失引当金繰入額	-	56,372
特別損失合計	-	61,507
税引前四半期純損失(△)	△113,759	△234,181
法人税、住民税及び事業税	1,928	2,037
法人税等合計	1,928	2,037
四半期純損失(△)	△115,688	△236,218

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成25年8月1日 至平成26年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計(注)
	機能性素材	機能性製品 (通販事業)	機能性製品 (OEM等)	バイオメディ カル	L S I	
売上高						
外部顧客への売上高	655,612	112,323	76,185	22,942	105,920	972,984
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	655,612	112,323	76,185	22,942	105,920	972,984
セグメント利益又は損失(△)	16,846	△164,238	△29,804	△7,966	42,882	△142,280

(注)セグメント利益(△損失)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第3四半期累計期間(自平成26年8月1日 至平成27年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計(注)
	機能性素材	機能性製品 (通販事業)	機能性製品 (OEM等)	バイオメディ カル	L S I	
売上高						
外部顧客への売上高	694,664	494,112	116,620	20,655	22,875	1,348,929
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	694,664	494,112	116,620	20,655	22,875	1,348,929
セグメント利益又は損失(△)	△18,261	△308,233	△22,166	△34,049	15,057	△367,653

(注)セグメント利益(△損失)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前事業年度よりセグメント情報の区分を見直し、従来の単一セグメントから「機能性素材事業」「機能性製品(通信販売)事業」「機能性製品(OEM等)事業」「バイオメディカル事業」「L S I事業」の5つをセグメントとした報告に変更しております。

従来は「機能性素材事業」の売上が大部分を占めておりましたが、通信販売事業の拡大による機能性製品部門の売上増加、バイオメディカル部門において創薬事業への展開を進め、収益拡大を見込んでいることにより、報告セグメントを区分したものです。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、当第3四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。